

令和5年度

第2回学校運営協議会

第2回 学校関係者評価委員会資料

学校評価 児童中間アンケートの結果より

期間:9月6日(水)～9月8日(金)

対象:1年生～6年生 138名

形式:オンライン調査による調査(4件法)

項目:「学習」「生活」「健康・安全」「学校」の4項目



令和5年10月27日

生駒市立生駒北小学校

資料(アンケート)

1・2年 児童アンケート(オンライン)

じぶんのことをおもいだして、こたえましょう。あてはまるばんごうに○をつけましょう。

ねん くみ なまえ ()

| | | 思いだすこと | そう思う | どちらかといえばそう思う | どちらかといえばそう思わない | そう思わない |
|---------|-----|---|------|--------------|----------------|--------|
| がくしゅう | 1-① | じゅぎょう中はともだちのはっぴょうをじぶんのいけんとくらべながらきき、しっかりとかんがえた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-② | じゅぎょう中はすすんではっぴょうし、じぶんのいけんやかんがえをいうことができた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-③ | 1年生は20ぶんかん、2年生は30ぶんかん、かていがくしゅうをした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-④ | さどうきょうしつやさほうきょうしつなどで、日本のぶんかやしきたりについて、きょうみをもってべんきょうした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-⑤ | じゅぎょうやかていがくしゅうで、タブレットをせっきょくてきにかつようした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-⑥ | いえで、10ぶんいじょう、本をよんでいる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-⑦ | たのしくえいごのがくしゅうをした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| せいかつ | 2-① | がっこうせいかつのきまりや、こうつうルール、ともだちとのやくそくをまもった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 2-② | がっこうのせんせい、ともだち、きんじょの人に、ていねいなことばをつかった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 2-③ | いじめたり、わるぐちをいったりして、あいてをきずつけるようなことをしなかった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 2-④ | ともだちや年下の子をたいせつにして、なかよくできるようにした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 2-⑤ | がっかつやどうとくのじかんに、じぶんもともだちもたいせつにするためにはどうすればよいかをかんがえた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 2-⑥ | じぶんやまわりの人をきずつけないためにタブレットはただしくつかおうとした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| あけんぜこんう | 3-① | やすみじかんは、そとに出てあそんだり、うんどうしたりした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 3-② | けんこうのことをかんがえて、きれいなものやにがてなものもがんばってたべようとした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 3-③ | たいいくのじかんには、しっかりと体をうごかしてうんどうした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| がっこう | 4-① | いこまきたしょうちゅうがっこうは、たのしい。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 4-② | こころにのこるがくしゅうやうんどう、ぎょうじがあった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

資料(アンケート)

3・4年 児童アンケート(オンライン)

じぶんのことをおもいだして、こたえましょう。あてはまるばんごうに○をつけましょう。

ねん くみ なまえ ()

| | | 思いだすこと | そう思う | どちらかといえはそう思う | どちらかといえはそう思わない | そう思わない |
|--------|-----|---|------|--------------|----------------|--------|
| かくしゅう | 1-① | じゅぎょう中は友だちのはっぴょうを自分のいけんとくらべながらきき、しっかりと考えた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-② | じゅぎょう中はすすんではっぴょうし、自分のいけんや考えを言うことができた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-③ | 3年生は40分間、4年生は50分間、家庭学習をした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-④ | さどう教室や さほう教室などで、日本の文化やしきたりについて、きょうみをもってべんきょうした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-⑤ | じゅぎょうや家庭学習で、タブレットをせっきょくてきにかつようした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-⑥ | 家で、20分いじょう、本を読んでいる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-⑦ | 楽しく えいごの学習をした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| せいかつ | 2-① | 学校生かつのきまりや、交通ルール、友だちとのやくそくをまもった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 2-② | 学校の先生、友だち、近所の人に、ていねいなことばを使った。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 2-③ | あいてをきずつけないように、いじめたり、わる口を言ったりするようなことをしなかった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 2-④ | 友だちや年下の子を大切に、なかよくできるようにした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 2-⑤ | 学活や道徳の時間に、自分も友だちも大切にするために、どうすればよいかをしっかりと考えた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 2-⑥ | 自分やまわりの人をきずつけないためには、どうすればよいかをしっかりと考えて、タブレットなどを利用した。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| あけんぜこう | 3-① | 休み時間は、外に出てあそんだり、運動したりした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 3-② | けんこうのことを考えて、きれいなものやにが手なものもがんばって食べようとした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 3-③ | 体育の時間には、しっかりと体を動かして運動した。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| がっこう | 4-① | いこま北小中学校は、楽しい。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 4-② | 心にのこる 学習や運動、ぎょうじがあった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

5・6年 児童アンケート(オンライン)

自分のことを思い出して、答えましょう。当てはまる番号に○をつけましょう。

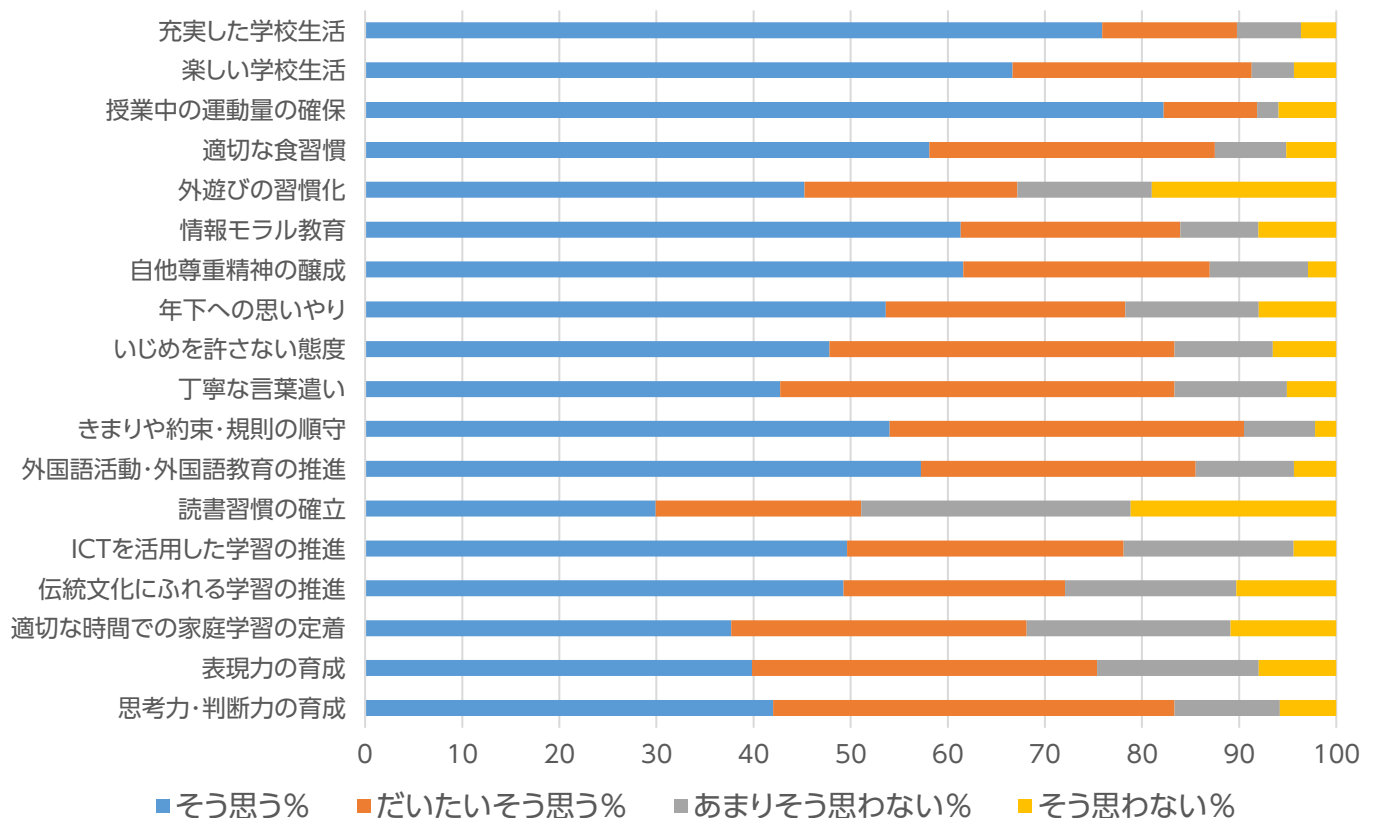
年 組 名 前 ()

| | | 思い出すこと | そう思う | どちらかといえ ばそう思う | どちらかといえ ばそう思わない | そう思わ ない |
|----------|-----|--|------|------------------|--------------------|------------|
| 学習 | 1-① | 授業中は、友だちの意見や発表を自分の意見と比べながら集中して聞き、しっかりと考えた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-② | 授業中は進んで発表し、自分の意見や考えを述べた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-③ | 家で1時間、家庭学習をした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-④ | 日本の文化やしきたりについて、興味を持って勉強した。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-⑤ | 授業や家庭学習で、タブレット端末を積極的に活用した。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-⑥ | 家で30分以上、本や新聞を読んでいる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 1-⑦ | 英語の授業にしっかり取り組み、英語で会話をしたり、自分のことを発表したりした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 生活 | 2-① | 学校生活のきまりや交通ルール、友だちとの約束を守った。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 2-② | 学校の先生、友だち、近所の人に、ていねいで適切な言葉を使った。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 2-③ | 友だちと仲良く過ごし、相手の気持ちが傷つかないように、いじめたり、陰で悪口を言ったりしなかった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 2-④ | 年下の子を大事にし、年下の子からしたわれたり、たよられたりした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 2-⑤ | 学活や道徳の時間に、自分も友だちも大切にするためにはどうすればよいかをしっかりと考え、行動した。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 2-⑥ | 自分や周囲の人の人権を守るためにはどうすればよいかをしっかりと考えて、タブレット等の情報機器を利用した。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 健康 安全 | 3-① | 休み時間はなるべく外に出て遊んだり、運動したりしている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 3-② | 健康のことを考え、苦手なものやきらいなものも、がんばって食べようとした。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 3-③ | 体育の時間には、しっかりと体を動かして運動した。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 学校 | 4-① | 生駒北小中学校は、楽しい。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | 4-② | 心に残る学習や運動、行事があった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

R5中間 全校児童アンケート

| 分類 | 番号 | 全校 | そう思う% | だいたいそ う思う% | あまりそ う思わない% | そう思わ ない% |
|------------------|-----|----------------|-------|---------------|----------------|-------------|
| | | 項目 | | | | |
| 学 習 | 1-① | 思考力・判断力の育成 | 42 | 41 | 11 | 6 |
| | 1-② | 表現力の育成 | 40 | 36 | 17 | 8 |
| | 1-③ | 適切な時間での家庭学習の定着 | 38 | 30 | 21 | 11 |
| | 1-④ | 伝統文化にふれる学習の推進 | 49 | 23 | 18 | 10 |
| | 1-⑤ | ICTを活用した学習の推進 | 50 | 28 | 18 | 4 |
| | 1-⑥ | 読書習慣の確立 | 30 | 21 | 28 | 21 |
| | 1-⑦ | 外国語活動・外国語教育の推進 | 57 | 28 | 10 | 4 |
| 生 活 | 2-① | きまりや約束・規則の順守 | 54 | 36 | 7 | 2 |
| | 2-② | 丁寧な言葉遣い | 43 | 41 | 12 | 5 |
| | 2-③ | いじめを許さない態度 | 48 | 36 | 10 | 7 |
| | 2-④ | 年下への思いやり | 54 | 25 | 14 | 8 |
| | 2-⑤ | 自他尊重精神の醸成 | 62 | 25 | 10 | 3 |
| | 2-⑥ | 情報モラル教育 | 61 | 23 | 8 | 8 |
| 安 全 健 康 | 3-① | 外遊びの習慣化 | 45 | 22 | 14 | 19 |
| | 3-② | 適切な食習慣 | 58 | 29 | 7 | 5 |
| | 3-③ | 授業中の運動量の確保 | 82 | 10 | 2 | 6 |
| 学 校 | 4-① | 楽しい学校生活 | 67 | 25 | 4 | 4 |
| | 4-② | 充実した学校生活 | 76 | 14 | 7 | 4 |

R5中間 全校児童アンケート



考察

・今回の中間アンケートで児童の肯定的意見が比較的に高い割合だった項目は、「外国語活動・外国語教育の推進」「きまりや約束・規則の順守」「自他尊重精神の醸成」「適切な食習慣」「授業中の運動量の確保」「楽しい学校生活」「充実した学校生活」の7つで、いずれも85%以上の児童が肯定的な評価をしている。特に「きまりや約束・規則の順守」「授業中の運動量の確保」「楽しい学校生活」「充実した学校生活」の4項目は、9割以上の児童が肯定的な評価をしており、多くの学年で高い達成率であった。中でも学校生活について質問した「楽しい学校生活」「充実した学校生活」は、それぞれ91%、90%の達成率であり、前半の教育活動において十分達成できたといえる。また、「きまりや約束・規則の順守」「授業中の運動量の確保」も91%、92%の達成率であり、この2項目についても、前半の教育活動において十分達成できたといえる。「きまりや約束・規則の順守」といった規範意識の獲得は、集団活動の場である学校生活において必要不可欠であり、落ち着いた学習をするうえでも大切な要素である。このことから本校の児童は、多くの児童が落ち着いた学校生活を送っているといえ、前半の教育活動においては大きな問題は無く、概ね安定した教育活動が展開されていたといえる。後半の教育活動においてもこれらの点を大事にして教育活動を進めていきたい。「外国語活動・外国語教育の推進」「自他尊重精神の醸成」「適

R5中間 全校児童アンケート

| 全校 | | | 肯定意見 (%) | 否定意見 (%) |
|------|-----|----------------|----------|----------|
| 分類 | 番号 | 項目 | | |
| 学習 | 1-① | 思考力・判断力の育成 | 83 | 17 |
| | 1-② | 表現力の育成 | 75 | 25 |
| | 1-③ | 適切な時間での家庭学習の定着 | 68 | 32 |
| | 1-④ | 伝統文化にふれる学習の推進 | 72 | 28 |
| | 1-⑤ | ICTを活用した学習の推進 | 78 | 22 |
| | 1-⑥ | 読書習慣の確立 | 51 | 49 |
| | 1-⑦ | 外国語活動・外国語教育の推進 | 86 | 14 |
| 生活 | 2-① | きまりや約束・規則の順守 | 91 | 9 |
| | 2-② | 丁寧な言葉遣い | 83 | 17 |
| | 2-③ | いじめを許さない態度 | 83 | 17 |
| | 2-④ | 年下への思いやり | 78 | 22 |
| | 2-⑤ | 自他尊重精神の醸成 | 87 | 13 |
| | 2-⑥ | 情報モラル教育 | 84 | 16 |
| 安健全康 | 3-① | 外遊びの習慣化 | 67 | 33 |
| | 3-② | 適切な食習慣 | 88 | 13 |
| | 3-③ | 授業中の運動量の確保 | 92 | 8 |
| 学校 | 4-① | 楽しい学校生活 | 91 | 9 |
| | 4-② | 充実した学校生活 | 90 | 10 |

肯定的意見が85%以上

否定的意見が31%以上

肯定的意見90~100%

肯定的意見80~89%

否定的意見41%以上

否定的意見31%以上

否定的意見21~30%

切な食習慣」の 3 項目は、それぞれが 86%、87%、88%であり、前半の教育活動において目標を達成したように思われる。しかしながら、それぞれの項目において学年間で達成率に開きが見られる。後半の教育活動においては、全ての学年で安定した達成がなされるように取組の強化を図っていききたい。

・肯定的意見の割合が高い項目が一番多い学年は 3 年生で、18 項目中 17 項目で肯定的な評価をしている。次いで肯定的な回答が多い学年は 1 年生で、18 項目中 16 項目で肯定的な評価をしている。2 年生は 18 項目中 13 項目で、4 年生は 18 項目中 12 項目で肯定的な評価をし、5 年生は 18 項目中 6 項目で、6 年生は 18 項目中 3 項目で肯定的な評価をしている。3 年生を除き、低学年ほど肯定的意見の割合が高い項目が多く、学年が上がるにつれてその数が減っていることがわかる。これは、学年が上がるにつれて児童が自分自身を俯瞰できるようになり、評価も厳しくなっているということが原因の 1 つとして考えられ、児童の成長とも捉えられる。しかし、今よりも楽しく充実した学校生活を送るために、また、児童が自身を認められるといった自己肯定感の獲得のために、各項目で肯定評価が多いことがよいのは言うまでもないことである。後半の教育活動において、低評価であった項目に重点的に取り組み、改善を図っていききたい。

・否定的意見が高い割合だった項目は、「適切な時間での家庭学習の定着」「読書習慣の確立」「外遊びの習慣化」の 3 項目で、それぞれ 32%、49%、33%の児童が否定的な回答をしていた。「適切な時間での家庭学習の定着」は、1 年生から 3 年生までは達成率が 9 割を超えているのに対し、4 年生では 44%、5 年生では 33%、6 年生では 50%の達成率と、急に達成率が下がっている。本校では、年度当初に「家庭学習の手引き」を各家庭に配布し、家庭学習の定着を図っているが、4 年生以上についてはうまく機能していないことが明らかになった。家庭学習は、宿題等の課題と、児童が興味関心のある内容について自主的に学習を進める自主学习とで成り立っているが、特に自主学习習慣の獲得は、今後、児童が上級学校に進学した際に、絶対に必要となることである。今回、4 年生以上で家庭学習の時間が目標の時間に達していない原因が、宿題等の課題が少ないことにあるのか、自主学习がなされていないことにあるのか、しっかりと見極めて後半の教育活動で改善を図っていかねばならないと考える。「読書習慣の確立」は、2 年生が 83%の達成率であるものの、それ以外の学年は達成率が低かった項目である。3 年生の 31%が否定的な回答をしており、4 年生以上の児童は、7 割近くかそれ以上の割合で否定的な回答をしている。全体としても 51%の達成率であり、全質問項目の中でも圧倒的に達成率が低く、早急な改善が必要であると考えられる。「外遊びの習慣化」は、3 年生が 92%の達成率であるものの、それ以外の学年は達成率が高くなかった項目である。特に 5、6 年生は、5 割ほどの児童が否定的な回答をしている。しかし、高学年は委員会活動等を休み時間に行うため、どうしても達成率が低くなる傾向にあると思われる。今回の評価で気になったのは、外遊びをしやすい環境にある 1、2 年生の達成率が 70%にとどまっていることである。今年は、例年にも増して猛暑であり、熱中症予防の点からもなかなか外遊びがしにくかったことが原因としてあげられるかもしれない。しかし、原因はそれだけではないとも考えられる。そうというのも、低学年の児童は、本来、外遊びを十分に経験するはずの幼年期がコロナ禍であったからだ。だから、中学年や高学年の児童と比べて、外遊びに対して興味関心が向きにくいのではないだろうか。外遊びには、運動機能面の向上だけでなく、休み時間に十分に体を動かすことで、その後、気持ちを切り替えて落ち着いて学習することができるなどの効果も期待することができる。児童が外遊びに対して興味や関心が持てるような工夫をしていききたい。

各項目の考察

R5中間 各学年及び全校児童アンケート

| 分類 | 番号 | 項目 | 肯定的意見(%) | | | | | | | 否定的意見(%) | | | | | | |
|----|-----|----------------|----------|-----|-----|----|----|----|----|----------|----|----|----|----|----|----|
| | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 全校 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 全校 |
| 学習 | 1-① | 思考力・判断力の育成 | 92 | 89 | 88 | 88 | 71 | 77 | 83 | 8 | 11 | 12 | 13 | 29 | 23 | 17 |
| | 1-② | 表現力の育成 | 100 | 78 | 96 | 81 | 58 | 47 | 75 | 0 | 22 | 4 | 19 | 42 | 53 | 25 |
| | 1-③ | 適切な時間での家庭学習の定着 | 96 | 94 | 92 | 44 | 33 | 50 | 68 | 4 | 6 | 8 | 56 | 67 | 50 | 32 |
| | 1-④ | 伝統文化にふれる学習の推進 | 96 | 88 | 96 | 50 | 38 | 62 | 72 | 4 | 12 | 4 | 50 | 63 | 38 | 28 |
| | 1-⑤ | ICTを活用した学習の推進 | 92 | 72 | 92 | 94 | 67 | 59 | 78 | 8 | 28 | 8 | 6 | 33 | 41 | 22 |
| | 1-⑥ | 読書習慣の確立 | 71 | 83 | 69 | 25 | 29 | 31 | 51 | 29 | 17 | 31 | 75 | 71 | 69 | 49 |
| | 1-⑦ | 外国語活動・外国語教育の推進 | 96 | 100 | 92 | 88 | 67 | 77 | 86 | 4 | 0 | 8 | 13 | 33 | 23 | 14 |
| 生活 | 2-① | きまりや約束・規則の順守 | 100 | 94 | 92 | 88 | 92 | 80 | 91 | 0 | 6 | 8 | 13 | 8 | 20 | 9 |
| | 2-② | 丁寧な言葉遣い | 83 | 94 | 92 | 75 | 75 | 80 | 83 | 17 | 6 | 8 | 25 | 25 | 20 | 17 |
| | 2-③ | いじめを許さない態度 | 100 | 89 | 96 | 63 | 79 | 70 | 83 | 0 | 11 | 4 | 38 | 21 | 30 | 17 |
| | 2-④ | 年下への思いやり | 96 | 78 | 92 | 81 | 58 | 67 | 78 | 4 | 22 | 8 | 19 | 42 | 33 | 22 |
| | 2-⑤ | 自他尊重精神の醸成 | 96 | 78 | 96 | 81 | 96 | 73 | 87 | 4 | 22 | 4 | 19 | 4 | 27 | 13 |
| | 2-⑥ | 情報モラル教育 | 100 | 94 | 92 | 88 | 67 | 70 | 84 | 0 | 6 | 8 | 13 | 33 | 30 | 16 |
| 健康 | 3-① | 外遊びの習慣化 | 75 | 72 | 92 | 63 | 54 | 48 | 67 | 25 | 28 | 8 | 38 | 46 | 52 | 33 |
| | 3-② | 適切な食習慣 | 100 | 82 | 92 | 94 | 83 | 77 | 88 | 0 | 18 | 8 | 6 | 17 | 23 | 13 |
| | 3-③ | 授業中の運動量の確保 | 100 | 100 | 100 | 94 | 88 | 77 | 92 | 0 | 0 | 0 | 6 | 13 | 23 | 8 |
| 学校 | 4-① | 楽しい学校生活 | 100 | 89 | 96 | 94 | 96 | 77 | 91 | 0 | 11 | 4 | 6 | 4 | 23 | 9 |
| | 4-② | 充実した学校生活 | 96 | 88 | 85 | 94 | 96 | 83 | 90 | 4 | 12 | 15 | 6 | 4 | 17 | 10 |

| | | |
|-------------|--------------|-------------|
| 肯定的意見が85%以上 | 肯定的意見90~100% | 否定的意見41%以上 |
| 否定的意見が31%以上 | 肯定的意見80~89% | 否定的意見31%以上 |
| | | 否定的意見21~30% |

学習

【1-① 思考力・判断力の育成】

・全校の肯定的意見の割合は 83%であり、達成できている項目といえる。しかしながら、高学年は他の学年と比較して肯定的意見の割合が 10 ポイント以上低い。思考力・判断力の育成は、児童に生きる力を育むうえで重要である。日々の学習活動の中で他者と意見交換をし、自身の考えを深化させるという経験を見童にさせていきたい。

【1-② 表現力の育成】

・全校の肯定的意見の割合は 75%であり、概ね達成できている項目である。しかしながら、学年間で評価にばらつきがあり、1 番高評価であった学年と、1 番低評価であった学年との間には 53 ポイントの開きが見られた。児童自身の精神的な成長に伴い、高学年になると、どうしても進んで発表をするということが減ってしまうが、ICT を活用して自分の考えを共有し、他者からフィードバックを受けるなど、表現の仕方を工夫して学習活動を活性化させていくことも考えていきたい。また、自分の考えや思いを表出するためには、自分の意見を受け止めてもらえるという安心感が必要不可欠である。引き続き、学級が見童にとって安心して自身を表出できる場になっているかを振り返り、学級活動等において SST やエンカウンターなどの活動を取り入れるなどして、児童が自分の考えや思いを表現できる場を意図的に創り出すことも考えていきたい。

【1-③ 適切な時間での家庭学習の定着】

・1 年生から 3 年生までは、達成率が 90%を超え高い達成率であるものの、4 年生から 6 年生は達成

率が 50%以下であり、全校の否定的意見の割合が 32%で達成が出来ていない項目である。先に行われた全国学力学習状況調査によると、生駒市の児童は、家庭学習時間が県や全国と比べて長いという結果であったが、本校の 4 年生から 6 年生の児童の半数近くは、学習時間が適切でないという結果になった。4 年生以上で家庭学習の時間が目標の時間に達していない原因が、宿題等の課題が少ないことにあるのか、自主学習がなされていないことにあるのか、しっかりと見極めて後半の教育活動で改善を図っていかねばならないと考える。家庭学習の習慣を身に付けておくことは、児童が上級学校へ進学した際に必要不可欠なことであり、その点を保護者にも理解してもらう必要があると考える。後半の教育活動において、学年だよりや個人懇談、学級通信等で家庭への啓発を強化していきたい。

【1-④ 伝統文化にふれる学習の推進】

・全校の肯定的意見の割合は 72%であり、概ね達成できている項目といえるが、4 年生、5 年生は達成率が 50%以下であり、学年間の評価にばらつきが多い項目である。本校が総合的な学習の時間に茶道・作法教室を系統的に行っているのは、茶釜の里である高山で学ぶ児童に、地域を誇りに思う気持ちを育むためである。この点をしっかりと児童に理解させていきたい。

【1-⑤ ICT を活用した学習の推進】

・全校の肯定的意見の割合は 72%であり、概ね達成できている項目といえるが、3 学年が達成率 90% 超えであるのに対し、達成率が 6 割に満たない学年があるなど学年間でのばらつきが見られた。個別最適な学習を展開していくために、ICT 機器を活用することはとても有効である。日々の教育活動での利用は勿論のこと、家庭学習においてもタブレットの積極的な利用をしていきたいと考える。

【1-⑥ 読書習慣の確立】

・2 年生が 83%の達成率であるものの、それ以外の学年は達成率が低く、全校の肯定的意見の割合が 51%で達成出来ていない項目である。3 年生の 31%が否定的な回答をしており、4 年生以上の児童は、7 割近くかそれ以上の割合で否定的な回答をしている。全質問項目の中でも圧倒的に達成率が低く、早急な改善が必要であると考え。読書習慣の獲得は、想像力といった非認知能力の向上に大変有効である。「適切な時間での家庭学習の定着」が 4 年生以上の学年で達成率が低いことを踏まえ、家庭学習に読書を組み込むなど、工夫して取組を進めていきたい。

【1-⑦ 外国語活動・外国語教育の推進】

・全校の肯定的意見の割合は 86%であり、達成できている項目といえる。特に 2 年生は達成率が 100%であり、児童が楽しんで外国語活動に取り組んでいることがわかる。低、中学年でのこうした活動や経験を素地にして、高学年では中学進学を視野に入れ、中学校教員と連携してより一層取組を進めていきたい。

生活

【2-① きまりや約束・規則の順守】

・全校の肯定的意見の割合は 91%であり、すべての学年で肯定的意見の割合が高く、達成されている項目である。しかしながら、児童の様子を見ていると、廊下歩行や制服の正しい着用など、学校生活においてきちんとできていないことも見受けられる。また、達成率が 1 番高かった学年と 1 番低かった学年との間には 20 ポイントの開きが見られ、注意が必要である。規範意識の醸成は、児童が社会生活を営むうえ

で必要不可欠である。引き続き全教職員で児童を見守り支援していきたい。

【2-② 丁寧な言葉遣い】

全校の肯定的意見の割合は 83%であり、達成できている項目である。時と場に応じた適切な受け答えができることは、他者との良好なコミュニケーション形成に有効であり、児童らに是非、身に付けさせたい事柄である。日々の学校生活においてその都度、指導していきたい。

【2-③ いじめを許さない態度】

・全校の肯定的意見の割合は 83%であり、達成できている項目といえる。しかしながら、1年生から3年生が高い達成率であるのに対して、4年生は達成率が7割に届かず注意が必要である。いうまでもないことであるが、いじめは絶対に許されることではない。このことを改めて児童にしっかりと理解させ、行動変容につなげていきたい。

【2-④ 年下への思いやり】

・全校の肯定的意見の割合は 78 で、概ね達成されている項目である。しかし、5年生は4割以上の児童が、6年生は3割以上の児童が否定的に評価している。たてわり活動の充実を図り、道徳等で思いやりについて学習するなど、後半の教育活動において改善が必要である。

【2-⑤ 自他尊重精神の醸成】

・全校の肯定的意見の割合は 87%であり、達成できている項目である。低、中学年は、自他を尊重するためにどうしたらよいかを考えているのに対して、高学年はその考えを踏まえて行動できたかを質問しているが、5年生は達成率が96%と高い達成率であった。円滑な人間関係の構築に、自他尊重の精神は重要である。今後も、この点を大切にして教育活動を継続していきたい。

【2-⑥ 情報モラル教育】

・全校の肯定的意見の割合は 84%であり、達成できている項目といえる。しかしながら、5年生は達成率が67%であり、注意が必要である。「自他尊重の精神の醸成」では高い達成率であったことを考えると、5年生の児童にも人権尊重の素地はあるものと思われる。情報モラルについて丁寧に指導を行うなどして、改善を図りたい。

健康・安全

【3-① 外遊びの習慣化】

・3年生が92%の達成率であるものの、それ以外の学年は達成率が高くない。特に5、6年生は、5割ほどの児童が否定的な回答をし、ほぼ半数の児童が外遊びをしていないという結果であった。今年は、例年にも増して猛暑であり、熱中症予防の点からもなかなか外遊びがしにくかったことが原因としてあげられるかもしれない。しかし、体力向上の観点からも、また、外遊びで適度に体を動かすことによって気持ちを切り替えて、その後の学習に集中して取り組むという点でも、外遊びの習慣化は達成させていきたい。ただ、高学年は委員会活動やその他の活動等で忙しい場合もあり、その点を配慮しながら学級遊びの設定など工夫して取り組んでいきたい。

【3-② 適切な食習慣】

・全校の肯定的意見の割合は 88%であり、すべての学年で肯定的意見の割合が高く、達成できている項目である。栄養教諭による食に関する指導を受けたり、教育活動全般を通じて食に関する指導を続けていたりすることが結果として表れていると思われる。引き続き、児童に適切な食生活の重要性について指導をし、望ましい食生活を送ることができるようにしていきたい。

【3-③ 授業中の運動量の確保】

・全校の肯定的意見の割合は 92%であり、多くの学年で肯定的意見の割合が高く、達成されている項目である。特に 1 年生から 3 年生は、肯定的意見の割合が 100%であり、体育の時間にしっかりと体を動かしていると思われる。引き続き、体育の学習においてしっかりとした運動量を確保し、児童の体力向上を図っていきたい。

学校

【4-① 楽しい学校生活】

・全校の肯定的意見の割合は 91%であり、6 学年中 4 学年で肯定的意見の割合が 9 割を超えており、達成されている項目である。しかしながら、学年間で達成率に開きがあり、特に 6 年生は 2 割以上の児童が否定的に評価しており、注意が必要である。児童の様子にしっかりと気を配って、後半の教育活動を展開していきたいと考える。

【4-② 充実した学校生活】

・全校の肯定的意見の割合は 90%であり、すべての学年で肯定的意見の割合が高く、達成されている項目である。学校生活において充実感を持つことは、新たなことに挑戦しようという意欲を持つことにもつながる。引き続き、児童らが学校生活で充実感を感じることができるよう、きめ細やかな教育活動を展開していきたい。